空襲

五月二十五日山の手大空襲

その日少年は…

昭和二十年五月二十六日（土）晴天

「バケツ・リレー」

午前零時現在、昨夜の十時ごろから帝都へ侵入しはじめたB29は、既に十数機を数え、続々として後続機が、我が家の上空にやってくる。今夜の空襲は今までとは違い、真上から焼夷弾が雨あられと降ってくるのだ。

（今日の日記は、緊迫状態のためにメモを取る余裕がなく、すべて記憶を元に書いたものであり、警報解除の時間、ラジオの情報などは不明である）。

ザーっという焼夷弾の落下音。ダダダダダーンと屋根をぶち抜く音。

「焼夷弾落下！」

と、悲痛な叫び声を聞く。周辺の火勢はぐんぐん強まり、旋風が巻き起こった。凄い煙だ！。目が痛い。息が苦しい。我が家も遂に煙に包まれた。人々が走る。口々に大声で叫んでいる

「お薬師さんが燃えてるそう、この辺ももうじき火をかぶるから、早く逃げろ！」

「薬師駅の方は駄目だ、火の海だそう！」

我が家も最後の時がきたようである。警防団のおじさんが飛んできた。

「女子供から先に避難してください。まだ火は通りの向こうですから、慌てなくても大丈夫です！」

「何処へ逃げたらいいんですか？」

と、成田のおばさんの声。

「ばっけが原（どういう字を書くかわからない）へ行ってください。避難場所は、ばっけが原。わかりましたか？。荷物は少しにして、飲み水は必ず持っていく事。いいですか、みなさんに伝達してください。頼みます」

小生は隣り組中伝達に走った。頭上にB29の爆音・ザーっと焼夷弾が降ってくる。

「焼夷弾落下ー」

思わず叫んだが、「退避」とは言えなかった。もう、そんな状況ではなかった。バリバリと大火災特有の無気味な音。熱風が焼けトタンを飛ばす。小生は頭に血がのぼり、昂奮状態になってしまった。〈冷静に、冷静に〉と、いくら心に言い聞かせても、気が動転して、浮き足立ってしまった。煙がうず巻いた。我が家の前を、新井の芸者さんや待合のおかみさん達が、大きな風呂敷包を背負って、ぞろぞろと避難していく。

顔見知りのしん駒さん（昔、芸者さん）が、娘の手を引いてやってきた。

「おっ母さんも早く逃げなきゃ焼け死んじゃうから、さっ、急いだ急いだ。先に行くわよ。早くいらっしゃい」

と言って小走りに駆けて行った。でも、母は落ちつきはらっていた。

「慌てなくっても大丈夫だよ。震災ん時なんて、こんなもんじゃなかったんだから。みんなばっけが原へ行けったって、被服廠の二の舞んなったらどうすんだね」

と言いながら、

「えーと、お位牌と通帳類に印鑑は持ったと。それからガマグチに一？、あ、そうそう、おっ母さんの近江八景の櫛と写真を入れなきゃ」

と、一つ一つ確認しながら風呂敷に包み、ヤカンに水を入れて、手ぬぐいを一本持った。用意周到である。そこへ松本のおばさん達がやってきて、お隣りの成田のおばさんと一団になって避難した。行く先は聞かなかったが、くそ落ちつきな母を見て小生も肚を据え、弟はハッパをかけて、手当たり次第に家の中の物を壕に入れ、しっかりと蓋をして土で密閉した。

辺りが炎で赤く染まり、新井薬師駅の方面から、我が家を一なめにせんと火の手が迫った。庭の立ち木の枝葉が熱風にざわめいて、早く逃げろと言っているようであった。

身の危険を感じ、〈最早これまで〉と、逃げ仕度にかかった。突然、風向きが変った。〈助かった〉。ホッとしたのも束の間、また煙が覆いかぶさった。つむじ風である。幸い炎は幾度か方向を変えつつ、押し戻されながら下火になり、あと百米足らずに迫った火勢が、嘘のように衰えていく。天佑神助、奇跡が起こったのだ。そういえばB29の爆音がしない。空襲は終ったのだろうか？。消防署のサイレンも半鐘も、ラジオも沈黙している。

腕時計も止まってしまった。時間もわからない。不安である。

「バケツリレーの応援に来てくださーい」

警防団員の声に、弟とバケツを持って走った。新井薬師入口のバス停から、正見寺へぬける狭いバス通りの向こう側で、火は止まっていた。タンスの修理屋さんと、米の配給所の裏が燃えている。

「ほいきた、それっ」

と、貯水漕から五十人ぐらいでバケツリレーだ。小生も弟も頑張った。風も治まり、必死の消火活動が効を奏して、どうにか延焼を食い止めたとき、消防自動車がやって来た。

「みなさん御苦労さん。もう大丈夫です。放水しますから道を開けてください」

と、消防隊員の声。三十分ぐらい奮闘したので、小生たちは、地べたに座りこんでしまった。ホースの筒先から勢いよく水がほとばしり、二十分ぐらいで完全に沈火した。

新井薬師寺一帯をなめ尽くした火災も下火になり、バス通りの片側は助かったようである。くたくたに疲れて家に戻ったが、貴重なバケツが一つ無くなってしまった。大きく名前が書いてあるから、よく捜せば見つかったかもしれないが、とてもそんな気にもなれなかった。焼け残ったのだから文句は言えない。目が痛い。頭も痛む。息をすると、胸も痛い。

ひょっこり母たちが帰って来た。ばっけが原まで行かずに、途中の線路の上から様子を眺めていたが、この辺は無事のようだったので帰ってきたのだという。

一息ついてから、弟と焼け跡を見に行く。新井薬師駅（西武新宿線）のホームの屋根が、まだチラチラと燃えていた。近くの路上でお医者さんが、看護婦さんと救護活動をしている。応急手当てを受けた怪我人の、白い包帯姿が痛々しかった。

踏切の所に立った。ぐるりと見まわすと、時計屋さんが無い。ライオン市場も焼けてしまった。この間スケッチした風景は、灰になってしまった。辺り一面に残り火がゆらめいて、夢を見ているような光景であった。

避難先からぞろぞろと帰ってくる人達。罹災者だろうか？。みんな踏切の所に立ってその有様を、茫然として眺めていた。

駅前のバス通りを、お薬師さんの方へ向かう。商店街の右側は焼け野原で、左側が奇跡的に焼け残った。文房具屋さんも古道具屋さんも、角の蒲団屋さんも焼け残った。ほんの紙一重である。お陰で我が家も助かったのだが、運が良かったとしか言いようがない。

お薬さんは、本堂も門前の千年けやきも、何もかも焼かれ。裏のヤクシ東宝（映画館）も、跡形なく焼けてしまった。辺りには熱気が立ちこめて、煙で目が痛む。急に体から力がぬけて立っていられなくなった。眠気におそわれ、ふらふらと家へ戻り、掛け蒲団に簀巻きになって横になった——。

私の戦中日記

『すいとん時代』

武田昭彦

（注）筆者は当時中学四年休学中、中野区上高田に父母と弟と住んでいた。

一夜明けたら焼野原……

●山の手大空襲直後の新井町附近（20年）〈和田廉三氏提供〉

中野の空襲

昭和19年

19年11月1日午後1時過ぎ、突然警戒警報が鳴りひびく。そして2分後に空襲警報。9月19日を最後にしばらく警報のない生活を送っていた人びとは、驚いてまだ完成していない防空壕に飛び込んだ者もいた。間もなくぬけるような秋晴れの空に東方からB29が1機、首都上空に侵入、中野の上空に迫ってきた。高射砲がいっせいに攻撃するがその中を悠々とB29は消えていった。

巨大な爆撃機B29を中野の人びとが中野上空で見たのは、この日が初めてであった。それはB29による初めての〝帝都偵察飛行〟であった。そして翌日から〝帝都〟は集中的に警戒警報と空襲警報の連続の日々となる。

すでに東京は、17年4月18日、B25による本土初空襲を受け、荒川・北・品川区などでは焼失61棟、1,227世帯の被害が出ていたが、中野区では、高射砲の破片による負傷者1名のみにとどまっていた。

中野に空襲の直接被害が出たのは、〝帝都偵察〟からおよそ1か月後の**11月24日**であった。この日正午過ぎ、B29、110機の大編隊が無気味な音をたてて中野上空を通過し、武蔵野の中島飛行機製作所などに集中爆撃をかけた。中野区では、鷺宮など4ヵ所に流れ弾が落ち、子ども1人は蘇生したものの、4人が死亡した。都立武蔵中学校や民家のガラスが破壊され、家屋1棟が半潰し、電柱が倒壊して通信が跡絶えた。

米国がマリアナ基地から、B29による〝帝都空襲〟を開始したのである。この日を境に、東京の空襲は本格化していく。

警報と空襲の間をぬって急いで防空壕を完成させる者、荷物を疎開させる者、罹災地に救助に行く者さまざまであったが、誰もみな等しく極度の食糧不足と睡眠不足で疲れ果てていた。深夜に警戒警報・空襲警報が頻繁に鳴るため、防空服を着たまま寝るようになる。

12月3日午後1時半、警戒警報、15分後に空襲警報が鳴るとともにB29、75機が数編隊に分かれて飛来し、再び中島飛行機製作所を連続集中爆撃。中野区ではこの時も鷺宮四～六丁目に流れ弾による被害が出ているが、その詳細は不明である。

12月27日正午頃、警戒警報と同時に空襲警報。またしてもB29が250機という大編隊で襲来し、中島飛行機製作所を集中爆撃した。中野区でも本町通りや江原町に爆弾を投下され、死者2名、重軽傷者8名を出した。

この日、中野上空では、日米機の空中戦がくりひろげられ、その壮烈な激戦ぶりを、防空壕の入口などで見ていた区民は多い。それは今までにない熾烈なものであったから、空襲に対する人びとの不安はいっそうつのっていく。「敵機の空襲は日毎に激しさを増し、明日が思いやられる」(「私の戦中日記『すいとん時代』」)と武田昭彦少年もその日の日記をしめくくっている。

その不安は的中し、翌28日から毎日数回ずつ鳴りひびく警報、

区長のノート

罹災対策

山口喬蔵区長(当時)

5月26日(土) 曇後晴

○夜半敵空襲ニ依リ区内半分焼土ト化ス。

○被害

1　60町会
2　戸数20,000
3　人口80,000
4　重要施設

イ学校。東京高等学校、都立家政女学校、私立中野中学校、東亜工業学校、新山、中野神明、向台、塔山、谷戸、東中野、新井、仲町、中野国民、上高田ノ十校全焼、桃園校半焼

ロ工場。

ハ寺院。薬師、宝仙寺、百観音

ニソノ他。中野区戦時託児所、中野郵便局

○応援

イ26日　軍隊　救護

神奈川県及千葉県医師団(習志野陸軍病院)ヨリ各一班宛応援ニ来ル

前者ハ多田国民学校収容所、後者ハ組合病院ニ配属

ロ足立駐屯常警部隊一ヶ大隊道路啓開ニ応援

ハ南多摩地方事務所ヨリ土木課長松尾稲蔵指揮ノ下ニ20名応援ニ来ル

○罹災者収容所

野方方面一啓明、野方、新井天理教会、新井二業地、沼袋永川神社、江古田国民学校、中野学園、上高田四ヶ寺中野方面一多田、中野本郷、桃園、桃二、実践商業、杉並工業、中野高女、橋場公会堂、桃園会館、区役所、桃園高女、本町四町会

○朝7時ニ都防衛本部ニ至リ、長官初メ次長等ニ被害ノ報告ヲナス。

経済局ニ要求セル物資次ノ如シ(罹災者8万人トシテ)

毛布　10万枚。
罹災者証明書　7万枚。
マッチ　4万個。
塵紙　400メ。
蓆　6,000枚。
石鹸　40,000ヶ。
手拭　40,000枚。

●空襲のあとの新井町附近（20年）

煙草　5万本
救食（乾パン）　10万食。
△都ヨリ同日夕刻迄ニ
毛布トラック3台　1,500枚
乾パン　2万食
米　300俵　} 但シ警察署ニ届ケタ。

5月27日（日）晴

1 行動
多田国民校ヲ初メ中野本郷、桃園ノ諸校ヲ巡視ス。
午后桃二ヲ巡視ス、長島君ニ課長ノ宿所ヲ依頼ス。杉氏ヲ訪フ。
渡辺潜君ニ課長ノ宿所ヲ依頼。
5時半ヨリ課長会、集団収容ノ管理者（明日ヨリノ）ヲ決定ス。給食ヲ本月末トス。
瀬山、山本両課長ヲ渡辺君ニ案内ス。

2 応援
○神奈川県鶴見班医師団（20名）応援ニ来ル。
多田国民学校ニ赴ク。
○都ヨリ物資来ル。
タオル、塵紙、煙草、餅
○給水車1台午前10時ニ来区
○都ヨリ医療班（動員）来ル（高山氏誘導）

5月28日（月）

○11時都次長、民生局長、経済局長ニ報告ス。
○被害詳報
戸数　20,077。人口　71,738。死者(27)
133区埋葬101。
傷者　(25) 重傷入院　123……死亡　18
軽傷　1,075。
町会　63
○応援26日
南多摩地方事務所ヨリ21名（土木課長以下）経理学校26日ヨリ27日　60名29日引上グ
習志野陸軍病院22名　26日、27日
神奈川県医師団1班（10名）　26日
神奈川県医師団2班（20名）　27日
足立部隊1ヶ大隊26日夕、27日、多摩部隊
26日、長官ヨリ見舞品
26日、米300俵、乾パン、毛布1,500枚、27日、塵紙400メ、煙草4,200本、餅6,600食（1枚6食）、タオル420打（5,000本、1世帯1本）粉乳100箱（48ヶ入）28日、厚生省ヨリ家庭薬を持参並ニ治療。都薬務課ヨリ家庭薬ヲ持参ス。
○対策
26日午前7時本庁へ報告
26日午后5時半臨時町会長会
26日集団収容所22ヶ所ニ開設ス
中野地区13、野方地区9、27日現在35、183人

（次頁へつづく）

そして首都を中心とする千葉・埼玉へのあいつぐ空襲、頭上を飛ぶB29……それは大晦日も、元旦もなく続いた。19年の大晦日、夜10時頃から始まった神田、上野、浅草地区の空襲がいったん解除になり、ほっとする間もなく、午前0時頃再び警戒警報、新年は警戒警報とともに明けた。

昭和20年

元旦の0時5分に始まった下町の空襲で、中野に直接の被害はなかったが、新年の気分など持ちようがなかった。4・5・6・7日と警戒警報は鳴りっぱなしで、燈火管制で真暗な中、冷えきった体をあたためるすべもない正月であった。

1月9日午後2時過ぎ、またしても中島飛行機製作所を目標にB29、約50機が来襲。区内に爆弾による被害はなかったが、また壮絶な空中戦が展開され、その結果、千光前町、宮園通四丁目、野方町付近に日本軍機が、江古田四丁目、沼袋町、鷺宮二丁目付近には日米両軍機が分解して墜落した。しかしどちらも人畜に被害はなかった。

1月27日この日は、昼すぎから警報と解除が続き、空襲も3回にわたってあり、京橋・銀座・有楽町などを中心に大きな被害が出た。これがいわゆる「銀座大空襲」で、銀座通りを中心に死者約540名、罹災者約4,300名、銀座は一瞬にして焼野原となった。

中野でも、本町通六丁目に焼夷弾を落とされ、火事になったが、大事に至らなかった。この日は、高射砲が猛攻撃をかけ、米軍機1機を撃ち落とし、あちこちでそれを見ていた人びとから歓声があがった。その一方で、朝日ヶ丘では、その高射砲の破片が落下して死者1名、重傷者1名、本町通でも破片にあたって1名が軽傷を負った。

その日の模様を武田少年は日記にこう書いている。

「〈来た！〉。雲上に轟々と地を圧するB29先頭梯団の爆音。低空である。ダダダダッと機銃音。――南方上空の雲を突き破って、幾条もの黒い物体が雨のように降ってくる。ザーっという音。〈爆弾だ！〉――猛烈な地響きにガラス戸がビリビリと鳴り、壕内の天井の隙間から、盛り土がサラサラと音を立てて降りかかった。――続々と敵の機団が頭上を通過していく。ズドン、ズドンと高射砲の一斉射撃が開始された。ドロドロドロと遠くで爆弾の炸烈音、ガラガラガラと至近弾が落下。耳をつんざく轟音、地響き、帝都は天地がひっくりかえるような戦場である。」(「私の戦中日記「すいとん時代」)

2月16日の空襲は早朝7時過ぎから夕方の4時頃まで、4回にわたって波状攻撃を受けた。この日は羽田・大島地区が主目標にされたが、中野でも、本町通三丁目で機銃掃射を受けて負傷者が出、上高田では高射砲の不発弾が落ちて家屋に被害が出た。

2月17日朝7時半から、いきなり空襲（深川・城東地区）。深夜11時過ぎまで、5回にわたって空襲が断続した。この日の空襲は、立川・武蔵野飛行機製作所に続いて下町が爆撃されたが、中野での被害は1名の負傷者にとどまった。

3月10日の下町大空襲は、警戒警報が出たまま解除にならず疲れ果てた人びとが、不安な中にもウトウトとしかけた午前0時をすぎたばかりであった。下町一帯にいきなり猛烈な連続波状じゅうたん爆撃が始まった。2時間ほどの間に、実に10万人の死者、100万人の罹災者を出した空前の大空襲であった。

幸い、中野区は被害を免れたが、そのものすごさを見聞した区民は、この戦いが地獄であることを知る。

特別救護班としてその救助にかけつけた助産婦の朝比奈政子さん(千光前町)は次のように語っている。

中野地区13ヶ所
多田（4,587）、本郷校（4,037）、桃園（1,727）、桃二（3,000）、桃三（1,200）、本町四丁（1,500）、中野高女（200）、実践商業（936）、杉並工業（700）、橋場公会堂（160）、囲会館（150）、桃園高女（30）、区役所（40）
野方地区9所
啓明（2,324）、上高田四ヶ寺（2,700）、願正寺（1,800）、沼袋氷川社（1,354）、江古田（2,990）、北原（98）、野方二丁目南（150）、中野学園（1,100）、野方（4,400）
○区支金庫ハ28ヨリ来ル予定
○中野区救護出張所
多田　広瀬課長（5,000）
本郷　木村課長（4,000）
野方　井口　（3,000）
啓明　福岡　（3,000）
桃園第二　佐藤浦造（3,000）
江古田　森田　（3,000）
○戦災者職員　83名（出勤可能190、240）
○非罹災世帯、米ノ配給状態、味噌醤油
○立札ヲタテサセル、罹災証明書、物資配給
○炊出者（町会ノ応援者）＝防護員トスル（第三種）
○燃料一中野区ストックアリ取ル
○野菜、魚
○末端配給ヲ調査セシムル
○茶碗、箸、○蠟燭（10箱）、マッチ（26日1箱、28日17箱）、石鹸（30日2万ヶ）、味噌、醤油、牛乳、酒（15石11人当り1合）
都ヨリ支給
1トラック2台
2物資
○都ヘ11時ニ登庁。次長、民生局長、民生局総務課長、経済局長ニ情況報告。
○東部軍司令部衣糧課長ニ面会シテ経理学校生徒出張ノ期日ヲ延長シテ貰フコトヲ依頼ス。
○2時ヨリ区会世話人会ニ情況報告。
○桑島区議ノ案内ニテ上高田ノ4ヶ寺（功運寺、鏡妙院、願正寺）ノ罹災者ヲ見舞フ。
○出張所長並ニ課長会ヲ開催ス。
5月29日（火）横浜地区大空襲
1今日ノ行動富田大僧正ヲ見舞フ、塔山公園ニ焼死者屍体処理ヲ巡視シ、附近ノ焼死体ヲ見廻ル。
井上大将ヲ焼跡ニ見舞フ。小滝ノ指導員ニ案内サレ道傍ノ死体ヲ見ル。塩野、本庄両閣下ニ残材払下名刺ヲ交付ス。
2都ノ応援　トラック2台

●すべて灰になってしまった新井町附近（20年5月）

3物資配給関係

塵紙、煙草、タオル、マッチ、野菜ノ配給ヲナス。

5月28日付経済局長通牒ヲ以テ、(1)必要物資ノ配給事務ハ29日ヨリ漸次平常配給ニ切替テ行ク事。(2)物資購入券附罹災証明書ヲ速ニ発給スル事。(3)生活必需物資ノ総合配給所ヲ開設スル事（概ネ1週間ヲ目途トスルコト）(4)屍体　28日　午前現在322体（中野279、野方43)、不明12

5月30日（水）

1今日ノ行動

警察、食糧営団ト平常配給ヘノ切換エ、並ニ応急物資5日間ノ配給量ニツイテ協議ス。

都ニ行キ、次長、民生局長ニ会ヒ明日ノ国民義勇隊結成式ニ告辞ヲタノム、帰途経済局ニ行キ金子ニ会ス。午后2時ヨリ臨時町会長会、終ッテ薄田、本間副隊長ニ明日ノ結成式ノ通告ヲナス。

5時半課長会

2都の応援　トラック2台

石鹸（2万ヶ）味噌（600貫）煙草（9,600本）送り来ル。

3対策

a屍体　中野319　野方43　計362

b町会長会指示事項

1）罹災跡地ノ処理

①、焼跡地ニハ壕舎、バラックハ建築制限ナクシテ建テテヨシ、但シ隣組ノ共同便所ヲツクレ

②、町会ハ従来ノヲ認メル、町会事務所ハ共同ニシテモヨシ

③、隣組ハ早ク再編成セヨ、コレガ配給ノ単位トナル

④、早ク跡形付ヲセヨ

⑤、釘ノ回収ヲセヨ

⑥、焼立木ハ6月15日迄ニ整理セヨ

⑦、無縁故者ノ集団疎開ノ希望者ヲ募ル

2）配給ニツイテ

①、罹災証明書（物資購入票附）ニヨル物資ハナルベクユックリセヨ

②、同上ノ有効期間ヲ1ヶ月延バス

③、同上ノ発行期間ハ6月10日限リトス

④、物資購入票附罹災者証明書ヲ交付シタルトキハ、罹災証明書ニ交付済ノ表示ヲナス事

⑤、燐寸配給ハ平常通リ明日アリマス

3）集団収容所ハナルベク早ク統合ス

4）兵事関係諸届ニツイテ

5）空襲ニヨル家屋滅失申告ニツイテ

6）非戦災地区ノ防護

「ほんと、地獄とはあのことですね。死体がゴロゴロ、それを全部トラックに積んで1ヵ所に集めて石油かけて焼きました。中には顔や手が焼けただれて苦しい苦しいってうめいている方もいて。応急処置して病院へ送るんですけど、病院の方でもあまりに多すぎて受け入れ体制がないから方々に分散して。中野の方にも何回が運んで来ました。トラックで中野駅まで帰ってくると、駅にもいっぱい、手や足が半分なくなっている人や焼けただれた人がうめいていました。」

中野区では、日本閣に被災収容所を、中野・東中野両駅に相談所を設けて本所区の被災者を収容した。

こうして、連日連夜恐怖と緊張感で防空壕を出たり入ったりしながらも、他区ほどの大きな被害に会わないですんでいた中野区内が初めて本格的な空襲を受けたのは、4月13日から14日にかけてであった。

4月13日の夜、11時をまわった頃から14日の2時頃までの約3時間、B29約160機が首都上空に飛来し、波状的に焼夷弾や爆弾を混投したため、被害は東京全区にわたった。

中野区でも昭和通、桜山町、住吉町に集中的に焼夷弾を落とされ、それが強風を呼んで火災となり、東中野駅より住吉町、昭和通一丁目、上高田一丁目、大和町、鷺宮二丁目、鷺宮六丁目、桜山交番付近で猛火災となった。火災は延々と続き、夜が明けるまで焼え続けた。全焼783戸、罹災者数3,068名、死傷者3名。東京全域では66万余の罹災者が出た。

しかしこれはまだ中野にとっては前しょう戦であった。その後も連日連夜サイレンとB29の轟音はやまず、徐々に空襲は下町から山の手に上がってきた。

5月24日の夜半にも鷺宮五丁目、六丁目に焼夷弾が落とされ、約30戸が全焼した。

5月25日は、早朝から何度も警戒警報・空襲警報が鳴りひびき、区民はもうヘトヘトになっていた。夜10時22分、再び空襲警報、間もなくB29が数編隊の大機団をなして房総方面から侵入し、東京北部・足立・王子・滝野川の各区に焼夷弾を落として退去した。ほっとしているところに26日午前1時頃、別の大機団が侵入、これまでかろうじて空襲を免れていた山の手の市街地域に、猛然と焼夷弾を投下しはじめた。その火は折りからの強風にあおられてその全域に燃え広がり、夜が明けると、東京は見渡す限りの焼野原になっていた。

中野も多田町、栄町通、昭和通、本町通、東郷町から新山通、仲町、野方町、大和町、江古田、鷺宮など、区内の約半分が焼失した。区内の死者418名、負傷者1,613名、全焼家屋70,736戸。これは正式に確認されたものだけで、この他未確認の行方不明者、家族だけで埋葬した者などを含めば、死者だけで1,000人は下らないのではないだろうか。

火の中をくぐり、かろうじて逃げのびた人びとは、焼土の中から古材を集めてバラックを建てて住み、あるいはついに東京への思いを捨て縁故疎開に出て行った。彼等のほとんどは、この戦争に絶望し始めていた。

その後も、東京では、各所に空襲が続いた。しかし、もう焼けるもののなくなった人びとは、焼野原に立って、まだ続く空中戦を眺めるのであった。そしてそれは8月15日の終戦の朝まで続いた。

※文中罹災者等の数字は、「中野区史昭和編一」と「東京大空襲・戦災誌」第3巻と区民の記録を参考にした。

終ッテ岡中野警察署長及柳瀬中野憲兵分遣隊長ヨリ挨拶

7)国民義勇隊結成式ヲ明31日午前10時挙行スル故ナルベク多ク隊員ヲ集メラレタシ

④**食糧事情**（栗原氏ノ報告）

29日午后5時現在

中野		野方
米穀	260俵	930俵
小麦粉	2,252袋	100袋
大豆	746袋	370袋
トーモロコシ	595袋	380袋

2日分（1日600俵）4日分（1日420俵）コノ外毎日1,000俵ハ秋葉原駅ヨリ自動車ニテ搬入ス。

災後中野署ニ600俵入ル、区役所ニテ指図書ヲ切ッタノガ28日迄ニ中野400俵、野方105俵

目下管外倉庫ニ2,800俵アリ（下落合4、小野田750、杉並上高井戸1,636俵、天沼500等）之レヲ区内ニ搬入ノ必要アリ。

⑤**集団収容所**（15ヶ所3,212人）20日現在　江古田校70、上高田三寺40、野方350、沼袋氷川社15、桃二348、実践188、桃園三12、桃園高女30、杉並工業25、挑三58、橋場会館60、桃園会館12

⑥**人口**

5月1日現在（実態調査）

世帯46,009　人口148,595

世帯46,877　人口166,982（4月20日）

世帯44,004　人口139,950（5月27日）

⑦**其他**

29日課長会ニテ残材払下ハ罹災職員ノ分ハ各課長ヨリ希望ヲ取リ総務課ニテ整調シテ土木課長之ヲ許可ス。

5月31日（木）

1 今後ノ対策

①救護所ノ見舞

②南多摩地方事務所ヘノ廻礼。（総務課長ヲ6月1日）

③見舞金、給与金ノ支出

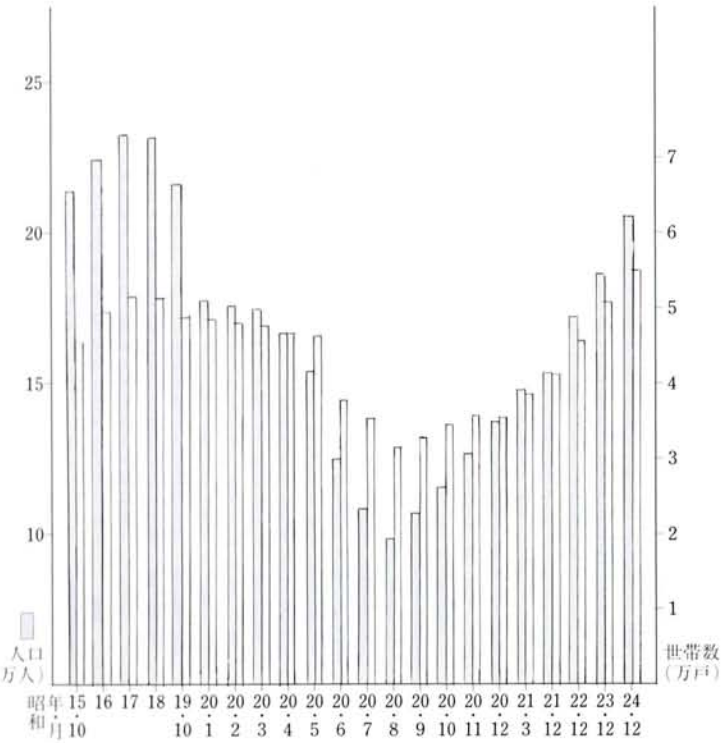
④合同慰霊祭（27日6月8日ニ執行）塔山、薬師ノ2ヶ所

2 今日ノ行動

午前10時ヨリ中野区国民義勇隊結成式。幕僚会議。午后本間大佐ト共ニ第2次救護所ニ戦災者ヲ見舞。夜罹災四課長、磯山署長ト共ニ野方一丁目町会ニ招バル。

3 都ヨリノ応援

●中野区の人口の推移



（注）・昭和15年は国勢調査。
・昭和16,17,18,19年（世帯数）は警視庁統計。
・昭和19年（人口）は人口調査。
・昭和20年以降は中野区総務課区政係の資料による。
19年と20年1月の差が大きいのは資料のちがいによるものである。

●中野区内の空襲被害状況

未確認の行方不明者、家族だけの埋葬者を含めるとさらに増加する

年・月・日	被害地域	死者	負傷者 重傷	負傷者 軽傷	被害家屋 全焼	被害家屋 半焼	被害家屋 全壊	被害家屋 半壊	被災人員
19・11・24		4							
12・3	鷺宮四・五・六丁目（白鷺一・二・三丁目、鷺宮五・六丁目、上鷺宮一・二・三・四・五丁目）								
12・27	本町通・西町34・35・36（本町6-31-33） 江古田2-798（江原町3-32） 野方町2-1241（野方2-7）	2	3	5			4	4	
20・1・9	千光前町（中野二丁目） 宮園通四丁目（中野二丁目） 野方町（野方） 江古田4-1554（沼袋4-34） 沼袋町316（沼袋3-26） 鷺宮2-746（白鷺1-10）	被	害	な	し				
1・27	本町通五・六（本町四・六丁目） 朝日ヶ丘24（本町2-38） 桃園町10（中野3-26）	1		2				1	
2・16	本町通三丁目（本町三丁目） 上高田1-256（上高田三丁目） 江古田4-1956（丸山2-12）	被	害	若	干				
2・17	江古田2318 向台町（弥生町一丁目）			1			2	1	
4・13 4・14	昭和通一・二丁目（上高田一丁目、東中野三丁目） 東中野駅 住吉町（東中野四丁目） 上高田1-33（上高田1-33） 大和町（大和町） 鷺宮6-700（上鷺宮5-3） 桜山交番（上高田1-2）	2		1	783				3,068
5・24	鷺宮五・六丁目（上鷺宮三・四丁目）				30				
5・25 5・26	多田町（南台三丁目） 栄町通（弥生町三・四・五・六丁目） 昭和通一・二丁目（上高田一丁目、東中野三丁目、中野六丁目） 本町通一・二・三・四・六丁目（本町一・二・三・四・六丁目、中央一・二・三・四丁目） 東郷町（本町二丁目） 新山通二丁目（南台二丁目） 仲町（中央三丁目） 鷺宮一・二丁目（若宮三丁目・白鷺二丁目） 江古田一・二・四丁目（松が丘一・二丁目、沼袋二・四丁目） 野方町（新井二丁目） 大和町（大和町一丁目）	418	1,611		20,707	1	8	10	

●（　）内は現在の町名

［ただし、「東京都戦災誌」中援護局・警視庁・帝防・消防の資料によると数字に若干の相違がある。］

（中野区史 昭和編一第17表より）

トラック3台
茶碗5,000ヶ、藁草履8,100（中島工場ヨリ買収）
シャツ9,100、葉書7,200、煙草66,000、薬品多数、蠟燭25箱

④屍体
中野355、野方45、計400

⑤集団収容所
多田—107　本郷—242、桃園—98、桃三—48、桃高女—6、橋場—20、桃二—4、野方143、上高田—45、江古田—23、啓明—8、計744

⑥入院患者　153人
井上—7、組合病院—61、山田—13、武蔵—12、松井—2、上出—2、織本10

⑦出張所
6月1日ヨリ出張所ヲ多田（広瀬課長）、本郷（木村課長）、桃二2（新地課長旧庁舎）ノ3ヶ所トシ、6月3日迄トス。6月1日ヨリ見舞金支出ニ努ム。

⑧其他
江口人事課長来庁都長官ヨリ職員一同ニ見舞金2,000円ヲ手交サル、尚ホ両課長ノ辞表ヲ取ル。

6月1日（金）

①今日ノ行動
本庁ニテ長官ニ会ヒ昨日義勇隊ニ出ラレタコトノ礼ヲ言フ。
第一人事係長ニ、井口、渡辺両課長ノ辞表ヲ取次グ。民生局総務課長ニ会フテ情況報告。経済局ニ立寄ッテ帰庁。○総務課長ヲ南多摩地方事務所へ礼ニヤル。

②都ヨリノ援助
トラック3台
下駄5,000足（栃木県ヨリ直送）
南多摩地方事務所応援職員10名昨日限リ引上グ

③屍体
中野367　野方45　計412
緑地課ヨリトラック2台応援

④集団収容所

6月2日（土）雨

①今日ノ行動
午前9時半区内浴場組合長及理髪組合長ヲ招致シテ戦災者ニ無料提供ヲ打合セシ、浴場ハ4日、理髪店ハ5日ニ一斉ニ提供スルコトヲ決ス。
(3)係ノ増減ハ之ヲ内申セザルコト　(4)壕舎生活者ハ室数調査（4日正午ニ完成スル事）
岡警察署長ニ会ッテ本町通四丁目町会役員ノ警視庁留置ノ善後策ヲ議ス。夕方本領、森、田島ヲ訪フ。　（以下略）

（本文は原文のまま掲載）

中野にサイレンが鳴った日

●昭和16年
〈12月〉
8 日 警戒警報発令 17時 0分
9 日 警戒警報解除 7時 0分
警戒警報発令 18時 0分
10日 警戒警報解除 6時 0分
警戒警報発令 17時30分
11日 警戒警報解除 6時 0分
13日 警戒警報発令 19時 0分
14日 警戒警報解除 6時 0分
●昭和17年
〈3月〉
4 日 警戒警報発令 19時37分
5 日 空襲警報発令 8時 8分
空襲警報解除 9時18分
6 日 警戒警報解除 10時 0分
12日 警戒警報発令 16時 0分
17日 警戒警報解除 14時10分
〈4月〉
18日 警戒警報発令 8時30分
〈空襲〉 12時10分
空襲警報発令 12時29分
空襲警報解除 15時48分
19日 空襲警報発令 2時 1分
空襲警報解除 3時52分
空襲警報発令 12時55分
空襲警報解除 15時47分
20日 警戒警報解除 6時 0分
21日 警戒警報発令 16時51分
警戒警報解除 18時26分
〈5月〉
5 日 警戒警報発令 8時 0分
警戒警報解除 13時 0分
6 日 空襲警報発令 7時53分
空襲警報解除 8時37分
警戒警報発令 18時17分
7 日 警戒警報解除 14時25分
〈7月〉
3 日 警戒警報発令 19時 0分
6 日 警戒警報解除 12時 0分
〈8月〉
12日 警戒警報発令 14時30分
14日 警戒警報解除 8時30分
●昭和18年
〈4月〉
4 日 警戒警報発令 20時45分
9 日 警戒警報解除 16時 0分
〈5月〉
12日 警戒警報発令 21時30分
15日 警戒警報解除 16時 0分
〈9月〉
1 日 警戒警報発令 18時30分
3 日 警戒警報解除 12時30分
●昭和19年
〈5月〉
20日 警戒警報発令 18時30分
22日 警戒警報解除 13時30分
〈6月〉
15日 警戒警報発令 17時30分
18日 警戒警報解除 12時30分
警戒警報発令 21時 0分
19日 警戒警報解除 16時 0分
〈7月〉
4 日 警戒警報発令 9時 0分
5 日 警戒警報解除 17時30分
〈8月〉
4 日 警戒警報発令 9時 0分
5 日 警戒警報解除 12時30分
〈9月〉
19日 警戒警報発令 12時25分
警戒警報解除 14時 7分
〈11月〉
1 日 警戒警報発令 13時23分
空襲警報発令 13時25分
空襲警報解除 14時55分
警戒警報発令 16時30分
警戒警報発令 21時45分
2 日 警戒警報解除 10時 0分
5 日 警戒警報発令 9時50分
空襲警報発令 10時10分
空襲警報解除 11時30分
警戒警報解除 14時 0分
6 日 警戒警報発令 9時30分
警戒警報解除 12時 0分
警戒警報発令 12時56分
7 日 空襲警報発令 13時10分
空襲警報解除 14時35分
警戒警報解除 15時30分
24日 警戒警報発令 11時50分
空襲警報発令 11時58分
〈空襲〉 12時15分
空襲警報解除 15時 0分
警戒警報解除 16時50分
25日 警戒警報発令 11時24分
警戒警報解除 12時55分
26日 警戒警報発令 13時 3分
警戒警報解除 14時45分
27日 警戒警報発令 12時 3分
空襲警報発令 12時54分
〈空襲〉 13時10分
空襲警報解除 15時 4分
警戒警報解除 15時30分
29日 警戒警報発令 23時25分
空襲警報発令 23時45分
〈空襲〉 23時55分
30日 空襲警報解除 2時45分
警戒警報解除 3時15分
警戒警報発令 3時55分
空襲警報発令 4時10分
〈空襲〉 4時15分
空襲警報解除 5時10分
警戒警報解除 5時55分
〈12月〉
3 日 警戒警報発令 13時32分
空襲警報発令 13時50分
〈空襲〉 13時50分
空襲警報解除 15時53分
警戒警報解除 16時30分
6 日 警戒警報発令 12時13分
警戒警報解除 13時26分
〈空襲〉 18時45分
7 日 警戒警報発令 1時32分
空襲警報発令 1時44分
空襲警報解除 3時 7分
警戒警報解除 4時 5分
警戒警報発令 17時45分
空襲警報発令 18時10分
空襲警報解除 18時50分
警戒警報解除 19時15分
8 日 警戒警報発令 2時 5分
空襲警報発令 2時18分
空襲警報解除 3時15分
警戒警報解除 3時45分
警戒警報発令 12時 0分
警戒警報解除 14時30分
9 日 警戒警報発令 3時 9分
警戒警報解除 3時53分
警戒警報発令 9時44分
警戒警報解除 10時20分
警戒警報発令 20時 0分
警戒警報解除 20時45分
10日 警戒警報発令 19時25分
空襲警報発令 20時 0分
〈空襲〉 20時35分
空襲警報解除 20時42分
警戒警報解除 21時 0分
11日 警戒警報発令 2時30分
空襲警報発令 3時 9分
〈空襲〉 3時19分
空襲警報解除 3時47分
警戒警報解除 3時55分
警戒警報発令 23時50分
12日 警戒警報解除 1時20分
警戒警報発令 2時35分
警戒警報解除 3時50分
警戒警報発令 19時25分
〈空襲〉 19時37分
空襲警報発令 19時40分
空襲警報解除 19時57分
警戒警報解除 20時 5分
警戒警報発令 21時10分
空襲警報発令 21時30分
〈空襲〉 22時 0分
空襲警報解除 22時10分
警戒警報解除 22時20分
13日 警戒警報発令 4時34分
警戒警報解除 5時10分
警戒警報発令 13時 5分
空襲警報発令 13時30分
空襲警報解除 15時 5分
警戒警報解除 15時55分
14日 警戒警報発令 2時47分
警戒警報解除 3時30分
15日 警戒警報発令 2時59分
空襲警報発令 3時13分
〈空襲〉 3時35分
空襲警報解除 4時 0分
警戒警報解除 4時15分
18日 警戒警報発令 12時22分
警戒警報解除 14時10分
警戒警報発令 22時49分
警戒警報解除 23時45分
20日 警戒警報発令 0時40分
〈空襲〉 1時16分
警戒警報解除 1時40分
警戒警報発令 10時43分
警戒警報解除 11時10分
警戒警報発令 21時55分
警戒警報解除 22時45分
21日 警戒警報発令 21時13分
〈空襲〉 21時20分
警戒警報解除 21時45分
22日 警戒警報発令 0時 5分
警戒警報解除 0時50分
警戒警報発令 12時10分
警戒警報解除 14時 0分
23日 警戒警報発令 4時 5分
警戒警報解除 5時10分
警戒警報解除 20時58分
警戒警報解除 22時10分
24日 警戒警報発令 2時 0分
〈空襲〉 4時44分
警戒警報解除 5時 5分
25日 警戒警報発令 2時28分
警戒警報解除 5時30分
27日 警戒警報発令 11時56分
〈空襲〉 12時10分
空襲警報発令 12時16分
空襲警報解除 14時20分
警戒警報解除 14時30分
警戒警報発令 21時 5分
警戒警報解除 22時20分
28日 警戒警報発令 15時24分
空襲警報発令 15時45分
空襲警報解除 16時58分
警戒警報解除 17時20分
警戒警報発令 20時 1分
警戒警報解除 23時10分
29日 警戒警報発令 20時30分
警戒警報解除 21時55分
30日 警戒警報発令 1時 1分
警戒警報解除 2時34分
警戒警報発令 3時35分
〈空襲〉 3時42分
警戒警報解除 4時 0分
31日 警戒警報発令 21時42分
〈空襲〉 21時44分
警戒警報解除 22時10分
警戒警報発令 23時50分
●昭和20年
〈1月〉
1 日 〈空襲〉 0時 5分
警戒警報解除 0時30分
警戒警報発令 4時50分
〈空襲〉 5時15分
警戒警報解除 5時25分
4 日 警戒警報発令 19時10分
警戒警報解除 19時40分
5 日 警戒警報発令 5時 4分
警戒警報解除 5時55分
警戒警報発令 20時45分
〈空襲〉 21時 0分
警戒警報解除 22時20分
6 日 警戒警報発令 5時 2分
警戒警報解除 5時45分
警戒警報発令 19時45分
警戒警報解除 20時45分
7 日 警戒警報発令 5時13分
警戒警報解除 6時10分
9 日 警戒警報発令 13時30分
空襲警報発令 13時52分
〈空襲〉 14時 0分
空襲警報解除 15時 5分
警戒警報解除 15時25分
10日 警戒警報発令 0時44分
警戒警報解除 1時 5分
警戒警報発令 4時42分
警戒警報解除 5時 5分
警戒警報発令 20時10分
警戒警報解除 21時 5分
11日 警戒警報発令 0時28分
〈空襲〉 0時44分
警戒警報解除 0時55分
警戒警報発令 2時27分
警戒警報解除 2時50分
警戒警報発令 21時55分
警戒警報解除 22時55分
12日 警戒警報発令 0時48分
警戒警報解除 1時40分
警戒警報発令 3時10分
警戒警報解除 3時50分
16日 警戒警報発令 10時 3分
警戒警報解除 10時20分
17日 警戒警報発令 4時36分
警戒警報解除 5時 0分
警戒警報発令 21時37分
警戒警報解除 22時15分
19日 警戒警報発令 13時55分
警戒警報解除 14時50分
22日 警戒警報発令 19時40分
警戒警報解除 20時10分
23日 警戒警報発令 0時36分
警戒警報解除 1時45分
26日 警戒警報発令 21時30分
警戒警報解除 22時30分
27日 警戒警報発令 0時20分
〈空襲〉1 次 0時48分
警戒警報解除 0時55分
警戒警報発令 2時17分
警戒警報解除 3時 5分
警戒警報発令 12時 5分
〈空襲〉2 次 14時 3分
空襲警報発令 14時43分
空襲警報解除 15時10分
警戒警報解除 15時20分
警戒警報発令 23時14分
〈空襲〉3 次 23時45分
警戒警報解除 23時50分
28日 警戒警報発令 10時 7分
警戒警報解除 10時30分
警戒警報発令 10時47分
警戒警報解除 11時 8分
警戒警報発令 21時40分
〈空襲〉 22時 0分
警戒警報解除 22時15分
29日 警戒警報発令 0時45分
〈空襲〉 1時 6分
警戒警報解除 1時20分
警戒警報発令 3時15分
警戒警報解除 4時 5分
〈2月〉
2 日 警戒警報発令 0時20分
警戒警報発令 0時45分
警戒警報発令 19時55分
〈空襲〉 20時 5分
警戒警報解除 20時25分
7 日 警戒警報発令 8時20分
警戒警報解除 9時50分
9 日 警戒警報発令 13時20分
警戒警報解除 14時35分
10日 警戒警報発令 9時32分
警戒警報解除 10時55分
警戒警報発令 13時25分
警戒警報発令 14時14分
空襲警報解除 15時57分
警戒警報発令 14時 0分
警戒警報発令 21時22分
警戒警報解除 22時13分
警戒警報発令 22時30分
警戒警報解除 23時23分
11日 警戒警報発令 2時25分
警戒警報発令 2時41分
警戒警報発令 11時 3分
警戒警報解除 11時40分
12日 警戒警報発令 9時41分
警戒警報解除 10時20分
警戒警報発令 19時 5分
警戒警報解除 19時27分
14日 警戒警報発令 3時19分
〈空襲〉 3時25分
警戒警報解除 3時40分
警戒警報発令 9時45分
警戒警報解除 10時41分
15日 警戒警報発令 13時26分
警戒警報解除 14時20分
警戒警報発令 15時15分
警戒警報発令 20時15分
警戒警報解除 20時45分
16日 警戒警報発令 7時 4分
空襲警報発令 7時 9分
〈空襲〉1 次 7時20分
空襲警報解除 9時35分
空襲警報発令 10時47分
〈空襲〉2 次 11時23分
空襲警報解除 12時 5分
空襲警報発令 12時30分
〈空襲〉3 次 12時50分
空襲警報解除 13時23分
空襲警報発令 14時55分
〈空襲〉4 次 15時50分
空襲警報解除 16時
17日 〈空襲〉1 次 7時30分
空襲警報発令 7時33分
〈空襲〉2 次 10時 0分
空襲警報解除 10時50分
〈空襲〉3 次 11時 0分
空襲警報発令 12時 2分
空襲警報解除 12時17分
〈空襲〉4 次 15時50分
空襲警報発令 16時 0分
警戒警報発令 20時31分
警戒警報解除 21時55分
警戒警報発令 23時20分
〈空襲〉5 次 23時53分
18日 警戒警報解除 0時
警戒警報発令 2時40分
警戒警報解除 3時 0分
19日 警戒警報発令 14時35分
空襲警報発令 14時41分
〈空襲〉 14時46分
空襲警報解除 15時48分
警戒警報解除 15時52分
20日 警戒警報発令 7時 7分
警戒警報解除 8時30分
21日 警戒警報発令 4時40分
警戒警報解除 5時 0分
警戒警報発令 13時14分
警戒警報解除 14時35分
警戒警報発令 14時28分
警戒警報解除 11時50分
24日 警戒警報発令 3時45分
警戒警報解除 4時20分
警戒警報発令 18時51分
〈空襲〉1 次 18時56分
警戒警報解除 19時22分
警戒警報発令 21時15分
〈空襲〉2 次 21時15分
警戒警報解除 21時45分
警戒警報発令 0時20分
警戒警報解除 0時40分
警戒警報発令 7時35分
〈空襲〉1 次 7時40分
空襲警報発令 7時41分
空襲警報解除 10時43分
空襲警報発令 14時15分
〈空襲〉2 次 14時58分
空襲警報解除 16時 3分
警戒警報発令 16時30分
警戒警報解除 21時19分
警戒警報発令 22時10分
26日 警戒警報発令 0時40分
〈空襲〉 1時0分
警戒警報解除 1時10分
警戒警報発令 7時20分
警戒警報解除 8時20分
警戒警報発令 19時 4分
警戒警報解除 19時25分
警戒警報発令 23時45分
27日 警戒警報発令 0時27分
警戒警報発令 8時35分
警戒警報解除 10時15分
〈3月〉
4日 警戒警報発令 7時25分
警戒警報発令 8時35分
〈空襲〉 8時45分
警戒警報解除 10時55分
空襲警報解除 12時 4分
5日 警戒警報発令 12時33分
警戒警報解除 12時10分
警戒警報発令 12時 2分
警戒警報解除 12時28分
25日 警戒警報発令 7時58分
警戒警報発令 8時25分
〈空襲〉2 次 2時30分
警戒警報解除 2時55分
警戒警報発令 3時38分
警戒警報解除 4時 5分
警戒警報発令 11時47分
空襲警報発令 11時58分
〈空襲〉1 次 12時10分
警戒警報解除 12時40分
警戒警報発令 13時 0分
警戒警報発令 22時 2分
空襲警報発令 22時22分
〈空襲〉2 次 22時30分
警戒警報解除 1時 0分
26日 空襲警報解除 1時30分
警戒警報発令 7時13分
警戒警報解除 7時55分
警戒警報発令 12時30分
警戒警報解除 12時55分
〈空襲〉 13時 0分
警戒警報発令 23時40分
27日 警戒警報解除 0時45分
28日 警戒警報発令 11時40分
空襲警報発令 12時13分
空襲警報解除 12時20分
警戒警報解除 14時 0分
29日 警戒警報発令 0時45分
空襲警報解除 1時 0分
警戒警報発令 6時26分
空襲警報発令 8時12分
〈空襲〉 8時45分
空襲警報解除 10時45分
警戒警報解除 10時50分
警戒警報発令 12時 3分
警戒警報解除 12時35分
警戒警報発令 12時 0分
警戒警報解除 12時40分
31日 警戒警報発令 10時25分
警戒警報解除 10時55分
〈空襲〉 11時50分
警戒警報発令 12時42分
警戒警報解除 13時11分
〈6月〉
2 日 警戒警報発令 11時43分
警戒警報解除 12時10分
3 日 警戒警報発令 12時 7分
警戒警報解除 12時50分
4 日 警戒警報発令 12時 2分
警戒警報解除 12時47分
5 日 〈空襲〉 11時20分
7 日 警戒警報発令 11時42分
警戒警報解除 12時 5分
8 日 警戒警報発令 11時40分
警戒警報解除 12時 7分
9 日 〈空襲〉1 次 3時 0分
〈空襲〉2 次 13時 0分
警戒警報発令 15時55分
警戒警報解除 16時 0分
警戒警報発令 16時13分
10日 〈空襲〉1 次 6時 0分
警戒警報発令 6時40分
空襲警報発令 7時 5分
〈空襲〉2 次 7時55分
空襲警報解除 9時45分
警戒警報発令 9時55分
警戒警報発令 12時13分
警戒警報解除 12時40分
11日 警戒警報発令 9時 4分
警戒警報発令 9時35分
警戒警報発令 11時29分
空襲警報発令 11時35分
〈空襲〉 11時50分
空襲警報解除 12時10分
警戒警報解除 12時23分
12日 〈空襲〉 9時20分
13日 警戒警報発令 11時27分
警戒警報解除 11時45分
警戒警報発令 23時25分
14日 警戒警報発令 1時50分
警戒警報発令 12時30分
警戒警報解除 13時 7分
15日 〈空襲〉 10時 0分
16日 警戒警報発令 0時20分
空襲警報発令 0時30分
空襲警報解除 1時17分
警戒警報解除 1時40分
17日 警戒警報発令 11時50分
警戒警報解除 12時18分
19日 〈空襲〉 4時30分
警戒警報発令 11時42分
警戒警報解除 12時 3分
警戒警報発令 23時25分
20日 〈空襲〉 2時 0分
警戒警報解除 2時45分
警戒警報発令 12時18分
警戒警報解除 12時42分
21日 警戒警報発令 23時20分
22日 警戒警報解除 0時50分
警戒警報発令 12時12分
警戒警報解除 12時35分
23日 警戒警報発令 6時45分
警戒警報解除 6時50分
警戒警報発令 7時 0分
警戒警報解除 7時55分
警戒警報発令 11時34分
空襲警報発令 12時 5分
空襲警報解除 13時20分
警戒警報解除 13時43分
警戒警報発令 23時20分
24日 警戒警報解除 0時35分
26日 警戒警報発令 11時55分
警戒警報解除 12時20分
27日 警戒警報発令 11時37分
警戒警報解除 12時 0分
28日 警戒警報発令 12時30分
警戒警報解除 13時 0分
30日 警戒警報発令 8時49分
警戒警報解除 9時 0分
〈7月〉
1 日 〈空襲〉 12時 0分
警戒警報発令 23時 0分
2 日 警戒警報解除 0時55分
3 日 警戒警報発令 0時50分
警戒警報解除 1時10分
〈空襲〉 12時45分
警戒警報発令 13時22分
警戒警報解除 13時40分
警戒警報発令 22時38分
警戒警報解除 23時15分
4 日 警戒警報発令 12時 7分
空襲警報発令 12時13分
空襲警報解除 13時 8分
警戒警報解除 13時15分
警戒警報発令 14時42分
警戒警報解除 14時50分
5 日 警戒警報発令 11時13分
空襲警報発令 11時20分
空襲警報解除 11時50分
警戒警報解除 12時30分
〈空襲〉 13時 0分
警戒警報発令 23時30分
警戒警報解除 23時46分
6日 警戒警報発令 10時 0分
警戒警報解除 11時10分
警戒警報発令 11時42分
空襲警報発令 12時 0分
〈空襲〉 12時50分
空襲警報解除 13時20分
警戒警報解除 13時28分
7 日 空襲警報発令 0時 5分
空襲警報解除 2時20分
警戒警報発令 3時45分
警戒警報解除 13時 3分
8日 警戒警報発令 23時 2分
警戒警報発令 23時36分
警戒警報解除 23時57分
空襲警報発令 11時55分
空襲警報発令 12時10分
〈空襲〉 12時20分
空襲警報解除 13時42分
警戒警報解除 13時50分
警戒警報発令 23時30分
9日 警戒警報解除 2時50分
警戒警報発令 7時45分
警戒警報解除 8時25分
空襲警報発令 12時 1分
〈空襲〉 12時15分
警戒警報解除 12時28分
10日 警戒警報発令 5時10分
空襲警報発令 5時17分
〈空襲〉 6時20分
空襲警報解除 7時25分
警戒警報解除 7時45分
警戒警報発令 8時15分
空襲警報発令 8時26分
警戒警報解除 13時 0分
空襲警報発令 14時10分
警戒警報解除 17時12分
警戒警報解除 18時30分
警戒警報発令 23時20分
11日 警戒警報解除 0時13分
警戒警報発令 1時15分
警戒警報解除 2時40分
警戒警報発令 7時55分
警戒警報解除 9時 0分
警戒警報発令 12時 8分
警戒警報解除 12時29分
12日 警戒警報発令 11時43分
警戒警報解除 12時 5分
警戒警報発令 23時12分
13日 空襲警報発令 0時 0分
〈空襲〉1 次 1時 0分
空襲警報解除 1時47分
警戒警報解除 2時 0分
〈空襲〉2 次 11時10分
警戒警報発令 11時28分
警戒警報解除 11時43分
14日 警戒警報発令 8時50分
警戒警報解除 9時38分
警戒警報発令 11時54分
警戒警報解除 12時17分
15日 警戒警報発令 1時50分
警戒警報解除 2時 5分
警戒警報発令 7時45分
警戒警報解除 8時15分
警戒警報発令 9時 3分
警戒警報解除 9時35分
警戒警報発令 12時15分
警戒警報解除 12時35分
警戒警報発令 23時38分
警戒警報解除 0時55分
警戒警報発令 8時23分
警戒警報解除 8時50分
〈空襲〉 12時12分
警戒警報発令 12時33分
警戒警報解除 13時 3分
16日 警戒警報発令 22時40分
警戒警報発令 23時26分
警戒警報解除 22時38分
〈8月〉
1 日 警戒警報発令 20時20分
空襲警報発令 20時55分
〈空襲〉 22時33分
2 日 〈空襲〉 0時 5分
空襲警報解除 2時41分
警戒警報解除 3時23分
警戒警報発令 11時42分
警戒警報解除 12時 5分
3 日 警戒警報発令 9時49分
空襲警報発令 10時21分
〈空襲〉 10時50分
空襲警報解除 11時30分
警戒警報解除 12時 5分
4 日 警戒警報発令 11時45分
警戒警報解除 12時17分
警戒警報発令 13時26分
警戒警報解除 14時 4分
5 日 警戒警報発令 1時37分
警戒警報解除 2時12分
警戒警報解除 8時 8分
警戒警報発令 11時19分
〈空襲〉 8時22分
警戒警報解除 8時57分
警戒警報発令 22時56分
警戒警報解除 23時27分
警戒警報発令 23時40分
6 日 空襲警報解除 0時15分
警戒警報解除 0時40分
警戒警報発令 5時50分
警戒警報解除 6時35分
空襲警報発令 7時35分
警戒警報解除 9時50分
警戒警報解除 10時 5分
7 日 警戒警報発令 0時44分
警戒警報解除 1時25分
警戒警報発令 8時29分
警戒警報解除 9時 0分
警戒警報発令 10時24分
空襲警報発令 10時26分
〈空襲〉 10時40分
空襲警報解除 11時57分
警戒警報解除 12時 2分
8 日 警戒警報発令 15時45分
空襲警報発令 15時55分
〈空襲〉 16時15分
空襲警報解除 17時15分
警戒警報解除 17時23分
警戒警報発令 23時10分
警戒警報解除 23時45分
9 日 警戒警報発令 6時41分
警戒警報解除 7時30分
警戒警報発令 8時15分
警戒警報解除 8時55分
警戒警報発令 6時10分
空襲警報発令 7時39分
〈空襲〉 9時50分
空襲警報解除 10時50分
警戒警報解除 11時10分
警戒警報解除 11時52分
警戒警報解除 12時20分
警戒警報発令 13時15分
警戒警報解除 14時35分
警戒警報発令 17時38分
警戒警報解除 18時10分
10日 警戒警報発令 1時16分
警戒警報解除 2時29分
警戒警報発令 10時25分
警戒警報解除 11時52分
警戒警報発令 12時17分
警戒警報解除 12時50分
警戒警報発令 19時55分
警戒警報解除 20時30分
警戒警報発令 22時12分
空襲警報発令 22時24分
空襲警報解除 23時40分
11日 空襲警報発令 0時10分
空襲警報解除 0時30分
警戒警報発令 0時45分
警戒警報発令 5時21分
空襲警報発令 5時26分
空襲警報解除 8時50分
警戒警報解除 10時 2分
12日 〈空襲〉 7時55分
警戒警報発令 11時10分
空襲警報発令 11時20分
警戒警報解除 17時40分
警戒警報解除 18時 0分
警戒警報発令 23時42分
13日 〈空襲〉 0時15分
警戒警報発令 1時37分
警戒警報解除 2時 2分
警戒警報発令 6時19分
警戒警報解除 6時45分
警戒警報発令 7時28分
警戒警報解除 8時27分
警戒警報発令 8時55分
警戒警報解除 9時 0分
警戒警報発令 22時55分
14日 警戒警報発令 0時26分
〈空襲〉 1時 0分
空襲警報解除 3時 0分
警戒警報解除 3時10分
警戒警報発令 5時35分
空襲警報発令 5時37分
空襲警報解除 8時55分
警戒警報解除 11時26分
16日 警戒警報発令 10時 4分
警戒警報解除 11時 5分
17日 警戒警報発令 10時41分
警戒警報解除 11時 7分
18日 警戒警報発令 11時37分
警戒警報解除 12時 7分

●「東京大空襲・戦災誌③」による。
〈空襲〉は都内での空襲を表わす。

VOICE 声

空襲

でっかくて、こわかったB29

B29はすごいね。初めて見た時はびっくりしました。あんなデカイ飛行機見たことなかったですから。あの大きな機体がずーと降りて来て低空になる時に銀色に輝いて・グーとすごい音でね。あれが8機か10機編成で来ていっせいに撃ち出すと、ほんと生命が縮まりました。玉だって日本の三・八銃でも鉛筆のキャップくらいなのに、B29はこんなに大きいんですから。

（**大塚敏行**・中1・野方町）

後半夜月明

あの頃、「後半夜月明（こうはんやげつめい）」という言葉がありました。夜中の後半が月明りで明るい時は、必ず空襲が来るということなんです。ほんとに明るい夜、晴れた日は、空襲がよくありました。私の空襲とB29のイメージは今もって「後半夜月明」と重なります。

B29の不気味な音は、今だに忘れられません。探照灯で照らし出して2センチ位にしか見えない時に、もう不気味な音がするんです。昼間見るとほんのヒゲみたいです。その尾っぽのところに飛行機雲を引いて2万メーターも上空を飛んでいてもあの音だけはするんですから。

（**竹中俊祐**・16歳・城山町）

飛行機が落ちてきた——

B29に体当たりしそこなった飛行機がちょうど目の前に落ちてきたんです。最初はキリモミになって、そのうちふわっとなったからやれやれと思っていたらいつの間にか脱出していて、近くの高圧線にひっかかってる。神田川をよけようとしたんでしょうね。飛んで行って見てあげたいんだけれど、兵隊さんが来て立入禁止にしちゃって、何にもしてあげられなかった。飛行機が落ちてきたこともありました。中に兵隊さんが苦しんでいるかもしれないと思うけれど、近くに憲兵隊があって、私たちより早くにジープで走ってって、縄張っちゃって入れてくれないんです。ケガよりも口封じが先なんだわと思うと、兵隊さんがかわいそうで、かわいそうで。

（匿名希望・主婦）

こわかった高射砲の破片

近くに陸軍中野学校があってそこに高射砲が沢山あって空襲になると必ずここから高射砲を撃つんです。それを女学校の友だち3人と見ていましたら、スパッと音がして高射砲の砲片が3人の真中に落ちてきたんです。道路にめり込んで、あとで掘り出してみたら、1センチ位の厚さでまわりがギザギザになった破片だったのです。もう震え上がりました。中野の空襲の被害者で、この高射砲の被害者は案外多いんじゃないですか。

（**原田雅子**・16歳・宮園通）

床屋の親子3人が…

私は当時、警防団の副団長をしてました。20年の4月13日の空襲は、夜の10時半過ぎから始まって朝まで続いて、うちの町会（上高田五）はほとんど直撃で焼けました。

上高田小学校には警防団の望楼があって、屋根の上に櫓をこしらえて見はりをしていたんですが、その小学校にも焼夷弾が落ちて、ほんとに15分で灰になりましたね。お寺にも大きなやつが一つ落ちて、近くの床屋の親子3人がお寺の玄関先に身を寄せていたんですね、直撃受けて、飛んで行ってみたら小さく黒焦げになっていました。私ら警防団が、燃えぼこりを集めて3人を焼きました。

お寺も焼け落ちて、その火が近くの防空壕の入口のところまで来ている。火が壕に入ったら危いので、みんな出ろ出ろというんですが、外に火があるからなかなか出て来ない。それを引っぱり出して、今、野球場になっている原っぱにつれて行きました。辺り一体に煙がもうもうとしていて夜だと思っていたら、もう10時頃になっていました。上高田小学校を中心に約300戸ほどありましたが、全部焼けました。

（**関田正**・41歳・都職員・上高田）

4月14日の上高田

4月14日・午前零時、「昭ちゃん、起きなきゃ駄目だよー。この騒ぎが聞こえないのか！」階下で怒鳴る母の声に目を醒す。今夜は空襲はなかろうと、すっかり服を脱いで寝ていたからさあ困った。大慌ててズボンをはき、ほかの物は抱えて防空壕へ飛び込んだ。

敵機が通過。突然、空襲警報のサイレンが狂ったように鳴り出した。3月10日の時と同様に、すでに新宿方面が燃えているではないか。その上空をB29が超低空で爆撃していく。間断なく侵入するうちの1機が、高射砲の直撃弾をくらって火だるまになり、真っ逆さまに墜落。続いて1機、また1機。今夜の高射砲は信じられないほどの命中率。

午前1時30分になった。敵機は続々と侵入し、投下する爆弾、焼夷弾が、次第に我が家に近づいた。東中野と思しき辺りにザーっと焼夷弾が落下。西方近くにも雨あられと投下されて、さながら両国

の川開きのようだ。我が家から見て、東西南北ぐるりと火に囲まれてしまった。
「敵機来襲！敵機来襲！」
一斉に連呼の声。敵機が頭上に迫った！上空で焼夷弾が破裂し、無数の光の帯が降ってくる。天地を揺るがす爆音を残してB29が通過。ダダダダーンと落下音。我が家から5・600メートルの地点であった。ドスン・ドスンと時限爆弾も落下しいつ爆発するかわからない。
昭和通の正見寺の交番辺りに火災が発生し、火の手が次第に近づく。
「家財道具から目を放さぬよう、注意してください」お巡りさんが自転車で注意してまわっている。こんな時に火事場泥棒が跳梁しているというのだ。

（**武田昭彦**・16歳・上高田・私の戦中日記「すいとん時代」より）

5月25日は火の海だった

5月25日の空襲の時はすごかったですね。最初、昼間新宿の方の空が真赤に焼けて、ああきれいだなあーなんて言っていたら、夜中に警戒警報が発令になって、いったん解除になったのでホッとしているところへ、甲府の方からB29の大編隊が来て、空襲警報が鳴ったと思ったらババーンと落とされて。ものすごい風が起きるんです。私、自転車に荷物を積んで逃げようとしたんですけど、自転車がスタンドかけても立っていられない位の風なんです。煙もひどいからもう目なんか開いていられない。
東中野の元の住吉町、昭和通二丁目あたりが4月13・14日の空襲で焼けていたから、空襲になるとその焼跡に逃げれば助かると考えていたんです。で何とかそこまで逃げたんですけど、帰りはまた自転車を引っぱってこれないんです。電柱や電線、いろいろなものが倒れていて。
家は焼けてしまいましたが、商売の蔵だけが残っていました。近所の人の荷物もその中に入れてあげていましたので助かり、みんなに喜ばれました。でもその蔵もすぐ開けると熱気で火が入りますので、2・3日そのままさまして開けました。
姉はおかしな話ですが、翌朝のお米をといだお釜を持って歩いていまして、帰ってきましたら風呂場のそばに置いてあった練炭がボッボ燃えていましたので、そこにお釜をかけてごはんを炊いて、隣の子どもにもおにぎりをつくってあげました。　（**古沢秀介**・15歳・宮園通）

●山の手大空襲の翌日　沼袋
（20年5月）〈落合謙次氏提供〉

ドラム缶が舞い上がる

怖いのは、大きなドラム缶が破裂して空高く上がるんです。コップ位の大きさになるまで上がって落ちてくる。それがあっちもこっちも、これは怖かったです。

（**匿名**・16歳・城山町）

たった半畳の防空壕に

あの日（5月25日）、父はちょうど田舎へ行ってまして、からだの弱い母と小学校に上がらない妹と私の3人でした。うちは染物屋でしたから、空襲警報が鳴るとお客様からお預りした品をまず防空壕へ入れて、モーターのミシンを二階から降ろして防空壕へ運ぶのが私の役目でした。その防空壕もうちは店ですから庭がありませんで掘れなくて、裏のお宅の鳥小屋の下に畳1枚ほどのをつくらせていただいて、階段をつくると半畳程度の小さいものでした。ですからお客様の品物とミシンを入れたらいっぱいで自分のものは何も入りません。
家がもらい火で燃え始めたものですから、一生懸命水をかけたけど消えなくて、母と妹にお位牌とアルバムを背負わせて先に逃げてもらいました。もっと大事なものがあったんでしょうけど、私たちの世代はお位牌をまず持ってという風に教え込まれていたのです。私はもうどうなってもいい、最後まで家を守ろうとしたのでした。隣組の方が来て、お嬢さんもう逃げないと危いよとおっしゃるのでお布団を自転車に積んで、宝仙寺の方へ行こうとしたんですけど、人ごみと強風とで自転車が倒れて、布団の重いのが乗っているからもう持ち上がらなくて結局置き去りにして逃げました。5月だのに冬のオーバーを着て、防空ずきんかぶって防火用水をかぶりかぶり。
うちのお隣りは、立派な防空壕をお作りになって、タンスまで入れていたんですけど、水をかぶって土が流れたんでしょうね、火が入って、もう半気違いのようになっていました。
うちの物は全部焼けましたけど、お客様のものは残って後で区役所だかから感謝状いただきました（笑）。
その日は防空壕で一夜を明かして次の日から強制疎開したあとの畳とか材木を拾ってきてバラックを建てて、しばらく住んでいました。家が焼けて、何にもなくなってしまいましたけど、うちだけではないと思っていましたから、ちっとも悲しくありませんでした。何とかなるだろうと思っていたのです。

（**下野和子**・16歳・宮園通）

空家ばかりで、火は早い

家が焼けたらもういっしょという感じでいました。借家の人はみんな疎開してしまって、持ち家の人だけが残っちゃった。空襲になると火の粉がとんできて、どの家にもどの家にも火がついていく。空家ばかりですから、あっちの家だ、こっちの家だとみんなゲタはいたまま空家に上がって水かけてまわったんですけど、井戸はポンプですから手間がかかるし、一晩中やってましたら、とうとう水がすっかりなくなって、あれには困りました。もうどこの家にも水がなくなってしまったのですから、焼けるの見てるしかない

わけです。

（斉藤千代・主婦・野方町）

中島飛行機爆撃で重傷

私は中島飛行機に勤めてた時に、空襲にあっちゃったわけです。緊急退避って命令がおりないと退避できないんですよ。みんなやかましくてね。それで緊急退避っていった時もう落ちて来ちゃったんです。もうどんどん落ちてきてですね、みんな機械が回っているんですから、電源切った時には、もう落ちてきちゃったんです。あっちこっちで落ちて、油脂が散ってですね、火の海になったわけです。結局私は重症負って、トラックで担架ごと乗っけられて清瀬へ運ばれたんです。治療っていったって薬もないし、医者もいないし、繃帯なんか、血だらけのを水洗いして、乾ききらないのを、まだ濡れているのを巻くような具合です。私はその頃臨時工でまだ体力がありましたから、今こうしていますけど、前から働いていたような熟練工さんがわりあいに、ほとんど亡くなってますね。

この人相ひどいでしょう。これで随分良くなったんですよ。お風呂屋行って風呂入ると駄々をこねてる子どもが、私の顔見てみんな驚いちゃって、泣くんです。自分で鏡見ても驚くような形なんですね。皮膚がやられてますから。ですから知らない子は驚いちゃって泣くんですね。うちの子どもはもうそういう顔だと思ってましたからそういうことはなかったですけど……。

（杉田健・36歳・中島飛行機臨時工・上高田）

重症患者はベッドの下に

私はすぐ看護婦と工作隊を指揮して、まず患者を退避させた。患者の退避は、これまで何度も訓練してきたので、全員を所定の防空壕まで誘導し退避させるのにたいした混乱もなかった。ただ重症者は防空壕まで担いでゆくとあとで必ず発熱するので、本人たちの希望でベッドの下に入れることになっていた。患者全員の退避完了の報告をうけてから、私は工作隊員と中庭で待機していた。

突然、敵の１機が療養所のすぐ上空を、我われに覆いかぶさるようにごう音とともに飛来し、思わず全員が伏せの姿勢をとった瞬間、ガランガランという音をたてて近くの廊下のトタン屋根に何かが落下した。

恐る恐る屋根に登ってみると、不発の焼夷弾であった。

（後藤励蔵・医師・「人民は大地であった」より）

●焼けてしまった東中野一丁目附近（22年）

万葉集も焼けました

うちのお父さんは、とにかく本の好きな人でしたから、疎開させようと思って、玄関わきの部屋にぎっしり本をつめたつづらを置いていたのです。それもみんな燃えてしまいました。３日間位燃え続けていました。灰になっても活字が読めるんですね。万葉集の12冊、これだけは焼きたくない。お前は無学だから、これを読ませたいといっていたのですが。

（山田みのえ・主婦・宮里町）

塔山公園と小滝橋あたり

塔山公園では沢山の人が亡くなっていましたが、小滝橋付近もひどかったです。防空壕でそっくり蒸し焼きにされた人も多く、電柱には沢山焦げた人がぶら下がっていました。

（杉山ちよの・20歳・昭和通）

父は妹の疎開先に行って留守でした

今日あたりは大丈夫だろうと父は東京のことも心配しつつ妹の集団疎開先の下諏訪に面会に行って留守でした。母は妹が集団疎開に行く少し前に亡くなっていましたので、私と弟は若い従姉といっしょに、防空ずきんの上に水でぬらした敷ぶとんをかぶり、照明灯や焼夷弾がパラパラと落ちてくる猛煙の中を駅裏に出ました。線路の枕木がメラメラと燃えていて足がすくみましたが、駅の陸橋を渡って３月10日の大空襲で焼けてしまった駅の北側の方に火と煙に追われながら逃げていました。父が留守で３人心細い思いをしましたが、もし父や妹がいたら、誰かがもっと危険な目にあっていたかもしれない、やはり疎開させていてよかったと思いました。

夜が明けて、やっと焼けてしまったわが家に戻った頃、くすぶりつづける煙の中に太陽がにぶく照り、空が異様な色で不気味な光景でした。煙と緊張と寝不足で腫れて真赤になった目にもいろいろ物が見えてきました。台所にあった釜、木のぶあつい釜蓋は半分位こげ、炭のようになっていましたが、前夜仕掛けてあった水の中の米がそのままでしたので、あたりにくすぶる火で炊いて食べました。

地方に疎開させる荷物の中にあったのでしょう。私たちの大事なお雛さまたちは、きれいな着物は跡かたもなく、首のついたお顔だけ、廊下の片隅の焼跡に転がっていました。

水のあるところを求めて逃げたのでしょうか。大分後になって風呂場の辺りに飼犬の骨も見つけました。

（志平年子・13歳・川添町「ある少女の集団疎開日記」より）

私はどこにいるの？

私、あの頃、消防署に勤務していたものですから、山の手大空襲の翌日、昭和通を歩いていたら、道路の端に死体がゴロゴロ、そういうのを集めて塔山公園に埋めました。これは中野の人ばかりではなくて、他区の人のも多かったと思います。塔山公園いっぱいになる位あったんですから。煙にやられた人が多かったのかな。きれいな肌で、真白な肌着着た人も多かったです。

お昼ごろになると防空ずきんかぶってぼーとして、フラフラ歩いている女の人がいたから、どこへ行くんですか、どこから来たのですかと聞いても、自分がどこから来てここがどこかもわからないんです。そういう人がずいぶん通りました。

（**源九長松**・33歳・消防署職員・新井町）

炊きだし

空襲になると、おにぎりなどの炊きだしがありましたね。私も３月10日の下町大空襲の時は、おにぎり２つあげるから手伝ってくれと言われてお手伝いに行きました。５月25日の時も、外食券食堂が国から依頼されて、玄米ですけど炊きだしをしました。外食券食堂というのがあって、国か都で指示をして、焼けたところに炊きだしを持っていく役割が決まっていたんです。材料は軍の倉庫から運び込まれていたようです。

（**原田雅子**・16歳・城山町）

何も残らない空襲の火事

空襲の後は、食べる物も何もない。お釜も溶けてるし、茶碗も割れている。普通の火事だと消防が消すから何かしら残るものはあるけど、きれいに焼けてしまう。焼夷弾も大きいのが落ちると普通の家は真二つに割れて、見てるうちに燃えてしまう。小さいのが落ちるとそこが火元になって、風が起こって町中に散ばって行って、もうどこを消すというすべもない。

（**匿名希望**・上高田）

まず水がほしい

５月25日、この日は困難であった第六次の建物疎開が完了して、午前10時から、旧庁舎前の疎開跡地で第六次建物疎開除去工事竣工式ならびに壕舎落成式を行い、１時半より宝仙寺で建物供養を行ったんです。また一段落ついたということでほっとしてましたら、夜12時ごろ警戒警報。自転車で役所にかけつけました。その頃はどこへ行くにも自転車でした。ガソリンがないですから。

１機、２機とだんだん進入してきて、初めは城南でしたが次第に中野上空にもやってきて焼夷弾を盛んに投下する。しまいにはぐっと低空飛行で、Ｂ29が大きく見えましたね。日本の戦闘機は１機もなくて、向こうは悠々とテールランプつけて回っているんです。急いで宮園通まで行ったけど先に行けない。空襲のときの火事というのはジリジリ燃え広がるのではなくて、風が起こって１町先か２町先からでも燃え始めるんです。ですから中にいる者ははさみ打ちになって、それで相当やられました。煙に囲まれて窒息してしまったのです。本町通に行ってみたけどここも焼けてしまっている。鍋屋横丁の消防署の鉄塔に上がってみたらずーと火の海。じゅうたん爆撃ですからぐるぐる回って爆撃したんですね。何はともあれ本庁に報告しなければならない。で自転車に乗って行きました。もう淀橋、四谷、麹町まで沿線にひとつも家がないんですから。しかも残煙といいますかこれが熱いんです。自転車がパンクするかと思いました。都庁の角に赤十字社の東京支部がありまして、その地下室に幹部が集まってまして、都長官が「区長、何がほしいんだ」と。何はともあれ水をもらいたいと。熱気と汗で罹災者はみんな水々と言っているんですから。すぐ散水車が沢山来ました。その後で経済局に寄って、罹災者８万人として毛布10万枚、罹災証明書７万枚、マッチ、チリ紙、むしろ、石けん、乾パンなどをお願いしましたら、夕方までにきたのが毛布トラック３台1500枚、乾パン２万食、米300トンなどで、神奈川県や千葉県から医師団や医療団も来てくれました。

●東中野一丁目附近（22年）

その晩、早速、町会長会議を開いて相談し、翌日は課長会を開いて集団収容所の件をまとめて28日には罹災者救護団の出張所を決め、29日には塔山公園で沢山の焼死体の処理に立ち合いました。結局焼死体は全部で418体ということでしたが、防空壕で埋まったりしてはっきりわからない人はもっともっとあったと思います。６月８日に、塔山公園と新井薬師公園の２カ所で合同慰霊祭をやりましたが、とにかく区の半分以上が焼け、罹災者も半分以上でしたから、もう悪夢のような日でした。

（**山口喬蔵**・区長）